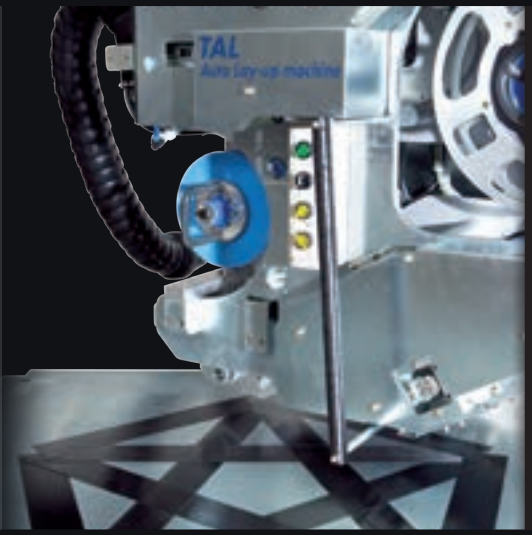
BUSINESS REPORT



TSUDAKOMA
BallDrive

株主の皆さまへ　第107期 第2四半期報告書

2016年12月1日から2017年5月31日まで

P7

キーワードで知る津田駒

3つの駆動方式

津田駒工業株式会社

株主の皆さまへ

代表取締役会長　菱沼捷二（右）
代表取締役社長　高納伸宏（左）

“強いツダコマの復活”に向け
十分な手ごたえを
感じています。

連結業績ハイライト

受注高	経常利益
22,832百万円 （前年同期20,392百万円）	△40百万円 （前年同期389百万円）
売上高	**親会社株主に帰属する四半期純利益**
17,500百万円 （前年同期20,236百万円）	△83百万円 （前年同期305百万円）
営業利益	**1株当たり四半期純利益**
38百万円 （前年同期497百万円）	△1.30円 （前年同期4.79円）

第107期第2四半期報告書をお届けするにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。各地で発生しております豪雨や地震等の被災地の皆さまには、心よりお見舞いを申し上げます。

Q 2017年度第2四半期の業績は？

A 第1四半期の落ち込みから急回復しています。

12-2月期（第1四半期）におきましては、繊維機械事業で、インド市場の一時的な落ち込みが影響し、全体でも赤字決算を余儀なくされました。しかし、3-5月期（第2四半期）にはインド市場は概ね正常化し、中国市場も回復傾向が強まってまいりました。また、工作機械関連事業は月次ベースで過去最高の受注を確保するなど、国内外の自動車業界を中心に好調に推移いたしました。

この結果、全体の受注高は22,832百万円（前年同期比12.0％増加）と増加いたしました。さらに特徴的なことは、受注環境が好転いたしましたことから、当第2四半期末で受注残高は12,165百万円と前事業年度末比78.0％増加しています。

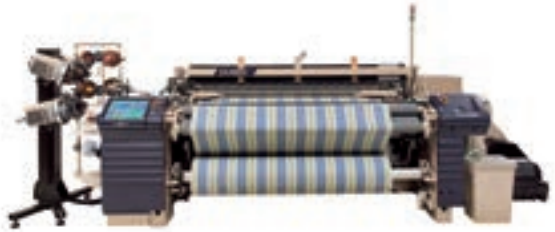
一方、売上高は17,500百万円（前年同期比13.5％減少）にとどまりました。

損益面では、営業利益は38百万円（前年同期比92.4％減少）と第1四半期の営業損失を挽回いたしましたが、経常損失は40百万円（前年同期　経常利益389百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は83百万円（前年同期　親会社株主に帰属する四半期純利益305百万円）となりました。

Q 工作機械関連事業が力強いですね。

A 自動車業界を中心に過去最高水準の月次受注を記録しました。

工作機械関連事業では、米国新政権の発足当時には政策を見極めるために一時的に投資計画の実施を見合わせる動きもありましたが、総じて、堅調に推移いたしました。国内市場では自動車業界の設備投資が続きました。当社は新製品のボールドライブ駆動NC円テーブルをエンジン部品の加工用装置として採用いただき、継続的に納入いたしました。米国市場では自動車業界に加え、航空機、医療などの分野が堅調に推移いたしました。また、



インドで需要が高いZAX9200i型エアジェットルーム

中国市場では、自動車業界の設備投資が進むとともに、電子機器、建設機械などの分野が回復してまいりました。こうした背景から、4月、5月には受注額が過去最高水準となる10億円超えとなりました。生産の効率化を進め、第3四半期以降の生産対応と業績アップに注力いたします。

フル生産の野々市工場（工作機械関連事業）

Q 繊維機械事業の状況は？

A インドや中国の回復需要の取り込みと新規の顧客開拓を進めています。

繊維機械事業では、インド市場における高額紙幣廃止政策による銀行業務の混乱が3-5月期（第2四半期）には概ね正常化し、12-2月期（第1四半期）との比較では、受注高は158.3％増加、売上高は297.0％増加と、急速に回復いたしました。また、昨年来、低迷が続いておりました中国市場は、タオル用エアジェットルームの大口案件を受注するなど回復基調が強まってまいりました。台湾市場では、台湾客先の国外への設備投資が活発になりました。

新興国市場では、想定しない要因による一時的なアップダウンは避けられません。従って、一層の需要の掘り起こしを図るため、新規顧客への訪問を増やすとともに、各国の展示会（バングラデシュ・2月、ベトナム・4月、パキスタン・4月）にも積極的に参加し、当社製品をアピールしました。

Q コンポジット機械の事業化は進んでいますか？

A 新たに三菱重工業様に航空機用のコンポジット機械を納入しました。

コンポジット機械では、三菱重工業株式会社様に航空機部材用の炭素繊維複合素材自動積層機等の新規納入を行なうことができました。さらに、

インド向けに炭素繊維プリプレグ素材のスリッター装置を初輸出いたしました。国際展示会等でも引き合いや問い合せをたくさんいただいています。

炭素繊維部材の量産化には当社が手がける自動積層機など、自動化装置が欠かせません。この点で当社にアドバンテージがあると思います。現在も、自動車メーカー様などと部材の開発を共同研究しています。炭素繊維部材の活用が一日も早く本格化することを期待しています。

Q 中期経営計画の成果は？

A “強い津田駒の復活”という目標を掲げた2016-2017年の2カ年中期経営計画ですが、十分な手ごたえを感じています。

前期は5期ぶりに黒字化を果たし、今期はスタートでインド市場の予期せぬ一時的な落ち込みがありましたが、最終的には昨年を上回る成果を上げる見込みです。黒字体質を確たるものとして、2020年への大きな目標に向けての弾みになる年だと思っています。

繊維機械事業では、引き続き無理な受注は抑え、販売先の多角化を図って販路を広げています。その結果、生産の平準化が進み、第2四半期には安定した日当りの生産量のもとで生産性の向上と改善を進められるようになりました。工作機械関連事業では、NC円テーブルのプラットホーム化を促進し、汎用機から特注機の一部まで基幹部品の共通化を進めています。

生産効率の向上、さらに30%のコストダウンを進めるために、製造部では昨年来、TAPS（津田駒生産革新活動）という活動を始めています。「生産管理板」を使って、標準化と作業指示の明確化で、ミスやムダを排除して生産能力を上げることを目的としています。

また、今年度は不良品の撲滅にも力を入れています。同じミスは繰り返さないよう、不良原因を徹底して追究し、再発の防止に努めています。

まだまだ、目指すところまでは遠い道のりですが、確実に強い津田駒の復活を実感しています。

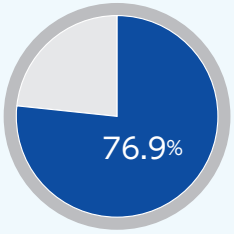
強い津田駒へ。ベテランから若手への技能伝承も進められている。

事業別の状況

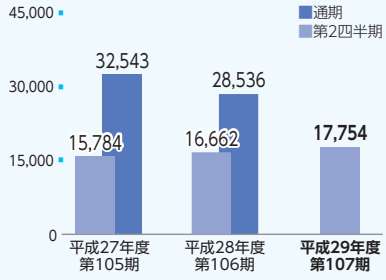
繊維機械事業

受注高	17,754 百万円	（前年同期比6.6％増加）
売上高	13,457 百万円	（前年同期比17.0％減少）
営業利益	255 百万円	（前年同期比63.7％減少）

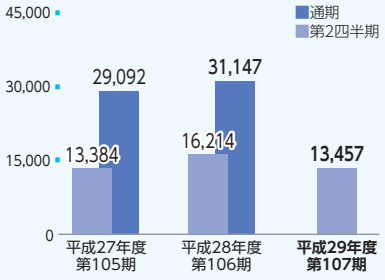
売上高構成比



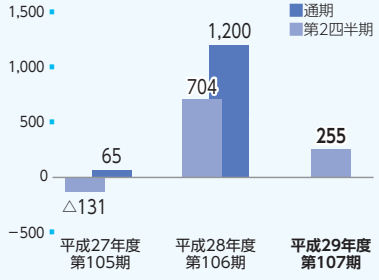
受注高 （単位：百万円）



売上高 （単位：百万円）



営業利益 （単位：百万円）



ツダコマの主な製品

繊維機械

エアジェットルーム・ウォータジェットルーム

水や空気の噴射力を使ってヨコ糸を織り込んでいく織物機械がジェットルームです。最新の電子制御技術を駆使して、1分間に1,000本以上のヨコ糸を織り込みながら、現代の産業界に欠かせない省エネや省人化を両立させました。

流行の衣料素材から産業資材までさまざまな織物を織りこなします。

タオル用エアジェットルームZAX9200Terry

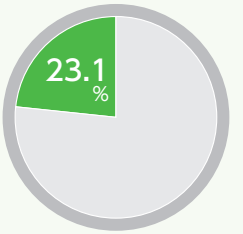
工作機械関連事業

受注高　5,077 百万円（前年同期比36.2%増加）

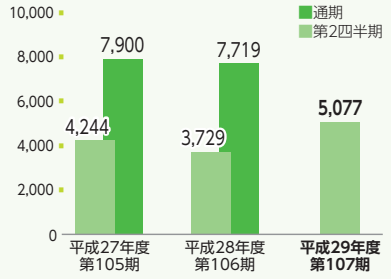
売上高　4,042 百万円（前年同期比0.5%増加）

営業利益　342 百万円（前年同期比8.3%増加）

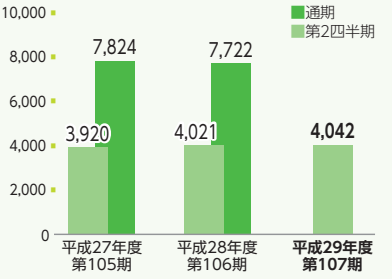
売上高構成比



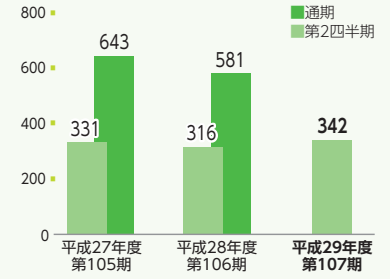
受注高（単位：百万円）



売上高（単位：百万円）



営業利益（単位：百万円）

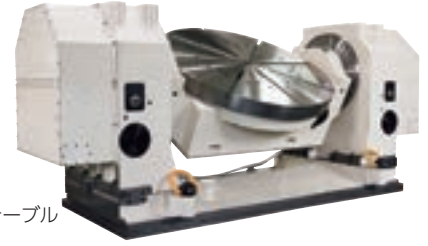


工作機械関連

NC円テーブル・マシンバイスなど

精密な部品加工に欠かせないNC円テーブルやマシンバイスを開発しています。

人気のスマートフォンから航空機、宇宙産業まで、さまざまな産業分野でご利用いただける製品ラインアップと高速性、高精度、耐久性が最大の特長です。

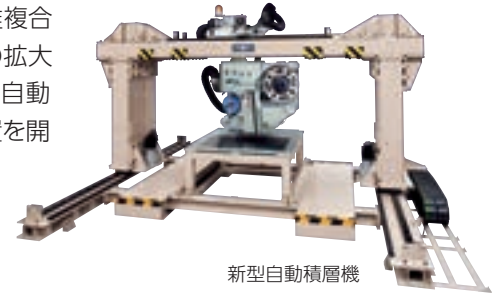


NC傾斜円テーブル

コンポジット機械

炭素繊維複合素材の自動積層機

21世紀の素材革命といわれる炭素繊維複合素材の自動積層機を開発しています。すでに新型航空機の機体の部材生産に使われています。また、自動車など炭素繊維複合素材の利用分野の拡大に先立ち、新しい自動積層機や周辺装置を開発しています。



新型自動積層機

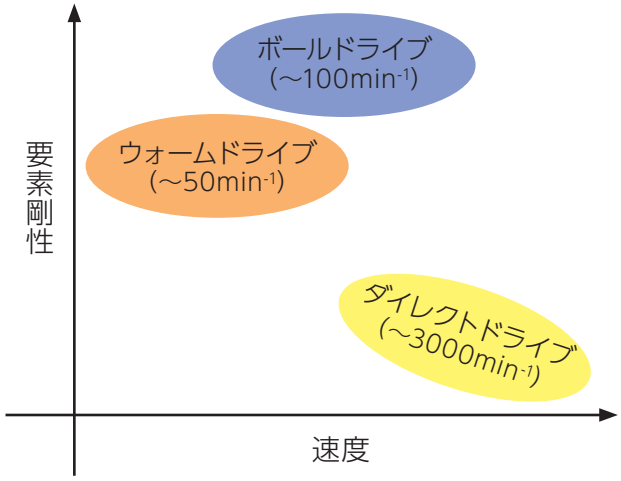
キーワードで知る津田駒

「3つの駆動方式」

お客さまにとって、最高かつ最適な加工装置を選択できることが、高度化する革新技術を“カタチ”にするための重要な要素です。津田駒が誇るNC円テーブルに採用されている3つの駆動方式をご紹介します。

<ウォームドライブ>

原動モーターの回転を、ウォームギアにより回転テーブルに伝達します。長年にわたって実績ある高精度複リードウォーム方式と津田駒独自の特殊歯形により、高い精度と耐久性を実現し、現在も高い評価をいただいております。電子機器から自動車、航空機・エネルギー関連まで幅広い分野で活躍しています。



<ボールドライブ>

原動モーターの回転を、鋼球の転がりを介して効率よく回転テーブルに伝達します。自社加工による高精度な部品と高度な組立技術がノーバックラッシ、高精度、高剛性、高速割出を実現しました。クランプレスによる加工時間の短縮、メンテナンスフリーなど、NC円テーブルに求められるあらゆる要素を最高レベルで実現。高い生産性と信頼性に加え精度にも厳しい自動車業界でエンジン部品加工に採用されています。

<ダイレクトドライブ>

減速機構を持たず、DD（ダイレクトドライブ）モーターと回転テーブルを直結することで、高速、高加速度な駆動が得られます。運転条件に応じた適切な冷却や積載質量の変動などに注意する必要はありますが、高精度な輪郭制御、複雑形状加工を高速で行うことが可能です。

より楽しく、豊かな働き方を目指して

より楽しく、豊かな働き方を実現するための、当社の取り組みの一部をご紹介します。

働き方改革の取り組み

■ 育児・介護支援

安心して育児・介護ができるように、「育児休業制度」や「介護休業制度」を整備し、また、小学校入学前までの子どもを対象とする「育児短時間勤務制度」も整備しています。

■ 労働時間の管理

総労働時間の短縮、休暇取得の推進を積極的に進めています。週一回のノー残業デーの設定や2カ月に一回の有給休暇取得に向けた上司の声かけ活動、メモリアル休暇、リフレッシュ休暇などの制度を整備しています。

■ 柔軟な働き方の工夫

職種に応じ、フレックスタイム勤務や裁量労働制度を整備し、効率的な業務遂行と成果の最大化を目指しています。

上記のような取り組みにより、「いしかわ男女共同参画推進宣言企業」に認定、「石川県ワークライフバランス企業知事表彰」をいただきました。

地域との交流

■ 百万石踊り流し

毎年6月に金沢市で行なわれる「百万石祭り」の「百万石踊り流し」には、例年百数十名のチームで参加しています。平成29年度は揃いの法被を作り、出場しました。

■ 金沢マラソン

秋に開催される「金沢マラソン」に協賛しています。

連結財務データ

四半期連結貸借対照表（単位：百万円）

科　目	前　期 平成28年11月30日現在	当第2四半期 平成29年5月31日現在
資　産　の　部		
流動資産	23,791	22,845
固定資産	12,388	12,741
有形固定資産	9,396	9,649
無形固定資産	80	111
投資その他の資産	2,911	2,980
資　産　合　計	36,179	35,587
負　債　の　部		
流動負債	16,888	16,325
固定負債	5,984	5,702
負　債　合　計	22,872	22,027
純　資　産　の　部		
株主資本	12,587	12,503
その他の包括利益累計額	△ 275	34
非支配株主持分	995	1,020
純 資 産 合 計	13,307	13,559
負債純資産合計	36,179	35,587

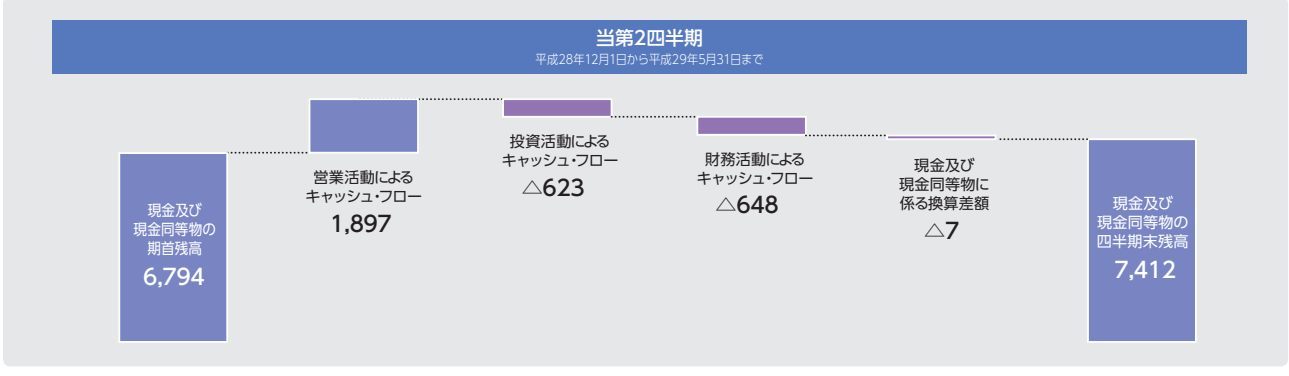
（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書（単位：百万円）

科　目	前第2四半期（累計） 平成27年12月 1日から 平成28年 5月31日まで	当第2四半期（累計） 平成28年12月 1日から 平成29年 5月31日まで
売上高	20,236	17,500
営業利益	497	38
経常利益又は経常損失（△）	389	△ 40
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失（△）	385	△ 43
四半期純利益又は 四半期純損失（△）	330	△ 55
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	305	△ 83

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要（単位：百万円）



会社概要／株式の概況

会社概要

本社所在地　〒921-8650 石川県金沢市野町5丁目18番18号
設　　立　昭和14年12月30日（創業　明治42年3月）
資 本 金　123億1,654万円
従 業 員　957名

役員の状況（平成29年7月21日現在）

代表取締役会長	菱沼捷二	
代表取締役社長	高納伸宏	コンポジット機械部門統括、工作機械関連事業統括
取締役	諏訪満	
取締役	松任宏幸	管理部門統括、総務部長、輸出管理室長、津田駒機械設備（上海）有限公司　董事長、津田駒機械製造（常熟）有限公司　董事長、TSUDAKOMA SERVICE INDIA PRIVATE LIMITED 代表取締役、ふぁみーゆツダコマ株式会社　代表取締役
取締役	山田茂生	繊維機械事業統括、調達部門統括、株式会社T-Tech Japan　代表取締役
取締役	北野浩司	製造部門統括、品質保証部門統括
取締役	越馬進治	
取締役	潮田資勝	
常勤監査役	橋本徹	
監査役	澁谷進	（澁谷工業株式会社　取締役副会長）
監査役	梶政隆	（カジナイロン株式会社　代表取締役社長）
執行役員	松本勝	工機販売部門担当
執行役員	坂井一仁	コンポジット機械部長
執行役員	大森充	工機技術部門担当、新製品推進室担当、工機技術部長、新製品推進室長、ツダコマテクノサポート株式会社　代表取締役
執行役員	浅井俊和	製造第1部長
執行役員	室井哲也	生産技術部長
執行役員	長谷博史	品質保証部長
顧問	竹鼻達夫	
顧問	西野順一	

＊取締役　越馬進治氏及び潮田資勝氏は社外取締役です。
＊監査役　澁谷　進氏及び梶　政隆氏は社外監査役です。

株式の概況（平成29年5月31日現在）

株式の状況

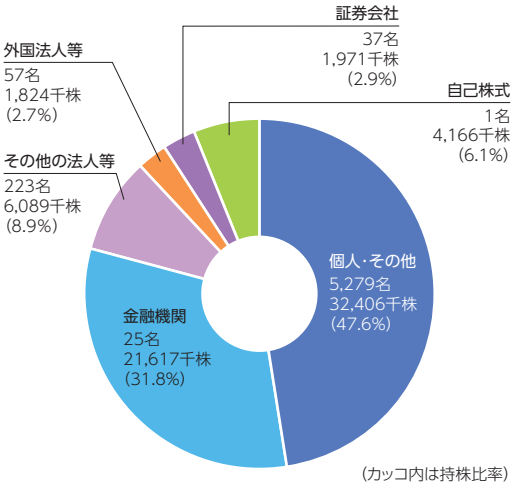
①発行可能株式総数	199,003,000株
②発行済株式の総数	68,075,552株
（内自己株式の数）	（4,166,606株）
③単元株式数	1,000株
④株主数	5,622名

大株主の状況

株主名	持株数（千株）
津田駒取引先持株会	9,917
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	4,491
明治安田生命保険相互会社	3,509
株式会社北陸銀行	2,580
株式会社北國銀行	2,320
ツダコマ従業員持株会	1,832
三井住友海上火災保険株式会社	1,785
東京海上日動火災保険株式会社	1,775
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,399
丸紅株式会社	1,023

（注）当社の保有する自己株式4,166千株は上記表には含んでおりません。

株式の分布状況



（カッコ内は持株比率）

DREAM NAVIGATOR
SINCE 1909
TSUDAKOMA

株主メモ

事業年度	毎年12月1日から翌年11月30日まで
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年11月30日 中間配当 毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
公告方法	当社ホームページ上に掲載
上場証券取引所	東京証券取引所（第1部）
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168－0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）	TEL 0120－782－031（フリーダイヤル） 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国各支店で行っております。

ホームページのご案内
http://www.tsudakoma.co.jp/